



【日本気象協会からのお知らせ】

2017年5月24日
一般財団法人 日本気象協会

SAS® FORUM JAPAN 2017 で需要予測に関する講演を行いました

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己、以下「日本気象協会」）は、2017年5月23日（火）にグランドハイアット東京（東京都港区）で開催された国内最大級のアナリティクス専門カンファレンス「SAS® FORUM JAPAN 2017」にて、気象分析・予測技術と人工知能（AI）を活用した需要予測に関する講演を行いましたのでご報告します。

<講演概要>

- イベント名称：SAS® FORUM JAPAN 2017
- 主催：SAS Institute Japan 株式会社
- 日時：2017年5月23日（火） 10:00～18:00
- 講演場所：グランドハイアット東京（東京都港区六本木6-10-3）
- 発表タイトル：需要予測で経営力を強化する ～気象データ活用の老舗だけが持つ勘所～
- 発表内容：日本気象協会は、1950年の設立から67年を迎え、業界のリーディングカンパニーとして、経験と技術力を基礎に事業を進めてきました。この歴史の中で、我々は、天気予報にとどまらず、気象・環境測定、モデリング、データ分析、システム化、情報提供をワンストップサービスで実現する総合気象ソリューション企業へ成長してきました。気象には次の3つの特徴、【1：唯一、未来を予測できる分野】【2：あらゆる業界に気象のリスク】【3：気候変動により経験のないシビア現象の発生】があるといわれています。これらの特徴を理解し、気象分析・予測技術と人工知能を有効に活用することで、需要予測の高精度化を実現し、ビジネス価値の向上につなげることができました。講演では、「電力・ガスの全面自由化で重要性が注目される電力需要予測サービス」「サプライチェーンマネジメントの効率化を目指す食品等の需要予測」の2事例をご紹介します。いずれも、気象データ活用によるデータ分析サービスから、気象データを有効に利用するポイントについて解説しています。
- 講演者：日本気象協会 環境・エネルギー事業部 エネルギー事業課 課長 森 康彰
- 講演風景：



- 講演資料（抜粋）：講演 PPT（抜粋）添付。

以上